

と記し、默啜を殺せることを以て、回鶻部長伏帝匐の功に歸せり、<sup>23</sup>而して之に類似せる記事は、通鑑の考異に引用せる唐曆に見え

唐曆又云、靈莖(即ち前出通典に入蕃使郝靈  
佺舊唐書の郝靈莖に相當す)引特勒回鶻部落、斬默啜于毒樂河(開元四年六  
月癸酉の條)

と記せり、思ふに新唐書回鶻傳の記事は此の種の資料に據り、且つ年代上之を部長伏帝匐の事業に歸したるものなるべきが、然も伏帝匐なる者は、既に其の父獨解支の時より、甘州・涼州の地方に移り住みし回鶻部の部長にして、當時漠北に勢力を有して默啜と抗争したる者とは思はれず、されば此の際回鶻が力を盡したりしものなりとすれば、其の部は伏帝匐の率ゐたるものには非ずして、却りて漠北に残留して南徙するに至らざりし別部なりしこと想像するに難からず、思ふに默啜を殺せるものが拔曳固なりしことは、通典・舊唐書及び新唐書の突厥傳等に見ゆるが如く疑無き事實なれども、然も此の際默啜に敵したるものは獨り此の部のみに止まらずして、漠北にありし回鶻の別部及び其の他の九姓諸部も之と力を戮せたるものなるべく、従がつて默啜を殺したるものを以て回鶻とも記さるゝに至りしものなるべし、而して更に此の事情を證明するに足るべきものは、前記の如く新唐書回鶻傳に、默啜の殺さるゝや、「於是別部移健頡利發、與同羅・霫等皆來、詔置其部於大武軍北」と見え、又舊唐書本紀開元四年六月癸酉の條にも「突厥可汗默啜爲九姓拔曳固所殺、斬其首送于京師、默啜兄子小殺繼爲可汗、……其(通鑑無其字)廻紇・同羅・霫・勃曳固(即ち拔曳固)・僕固五部落來降、於大武軍北安置」と記さるゝもの之なり、思ふに此の時に於る此等五部の來降は、彼等が默啜の滅亡に關して密接なる關係を有したるものなることを證明するものにして、默啜を殺すや彼等は直ちに相携さへて同月唐に來朝するに至りしものなること明らかなりといふべし。